

大山山ろくの豊かな資源を生かしたタブチ農園夫婦プラン

事業実施主体名	田渕章人・田渕百合子		住 所	伯耆町
プラン認定日	平成20年2月25日	プラン期間	平成20年～平成24年	

1 プラン内容

(1) 概要

- ・集落内の荒廃地を解消するため、地域の農地の受け皿となり利用権設定や受託作業を増やす。
- ・適期作業により高品質な野菜等を収穫して収益を上げるため、田植機やトラクターなどの高性能機械を導入し、水稻作業の効率化を図る。
- ・もちやおこわ等の加工品の開発や販売量の拡大により、経営の安定化を図る。

(2) 取り組みポイント

- 利用権設定による規模拡大
- 高性能機械（田植機、トラクター）の導入による作業効率化
- 米、野菜の直販拡大
- 堆肥投入による土づくり
- 電柵の設置等による有害鳥獣被害の防止

(3) 事業の概要

年度	内 容	事業費 (千円)	補助金額(千円)	
			県	市町村
H20	田植機（5条） 1台	1,791	596	298
H23	トラクター（34ps） 1台	3,905	1,301	1,301 ※嵩上げ有
合 計		5,696	1,897	1,599

2 プラン実施状況

(1) 労働力、経営内容

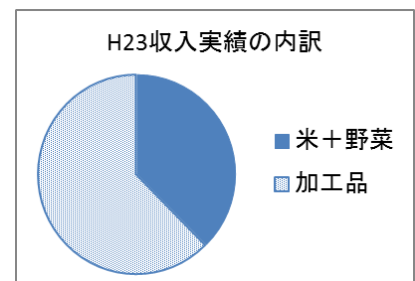
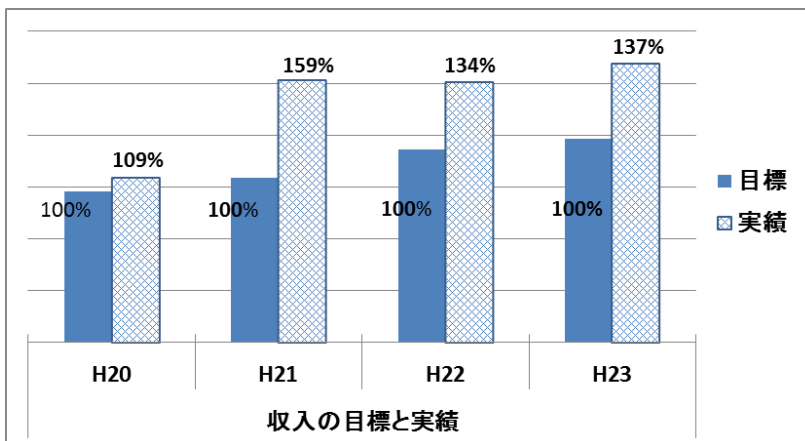
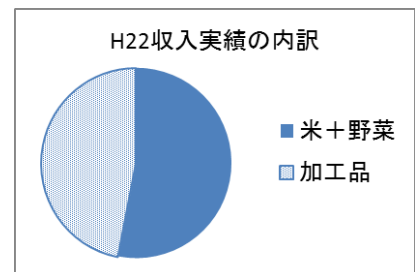
	認 定 時 (平成 20 年度)	現 状 (平成 24 年度)
労働力	2名	2名
経営内容・規模	水稲：160a そば：10a 野菜：90a きのこと類：30a 加工品：4品目 作業受託（田植え）：100a	水稲：350a そば：30a 野菜：130a きのこと類：30a 加工品：9品目 作業受託（耕起、田植え）：延べ 200a

(2) 成果

ア 以下の取り組みにより、収入実績は計画を上回り順調に経営発展している。

特に近年は、収入における加工品の占める割合が徐々に増大しており、6次産業化の取り組みについての優良事例とも言える。

- ① 利用権設定による経営面積の拡大（特に水田）
- ② 米の全量天日乾燥による高付加価値化
- ③ 畜産農家との連携による環境に優しい循環型農業の実現
- ④ 作業受託の拡大による地域農業の維持
- ⑤ 大型機械導入による作業効率化で、加工品製造時間を捻出
- ⑥ 米加工品の周年製造販売
- ⑦ 農産物及び加工品は地元直売所、スーパーへ直接販売



イ 今後の経営発展方向

- ① 作業受託の拡大による経営拡大と地域農業への貢献
- ② 新規加工機械の導入による加工品目の増加と加工事業の拡大
- ③ 後継者育成

[西部総合事務所農林局]